

ActiveImage™ 2022

PROTECTOR

IT Pro

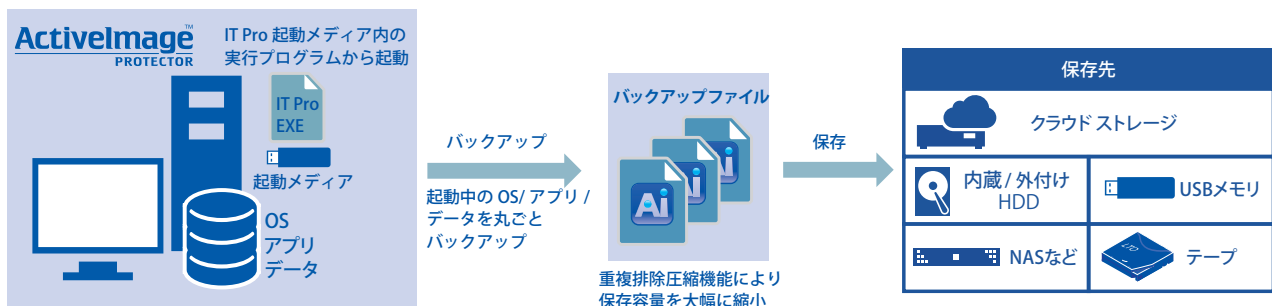
ActiveImage Protector™ IT Proとは

現場のITプロフェッショナル向けシステム・データ保護ソリューション

ActiveImage Protector™ IT Proは、システム導入やシステムメンテナンスの作業を頻繁におこなう、ITプロフェッショナルのために開発されたシステム・データ保護ソリューションです。システムの初期導入時やシステムの更新前などの状態を、サーバーを停止することなく簡単にバックアップすることができます。また、不測の事態には、バックアップから復元して迅速に復旧することが可能です。

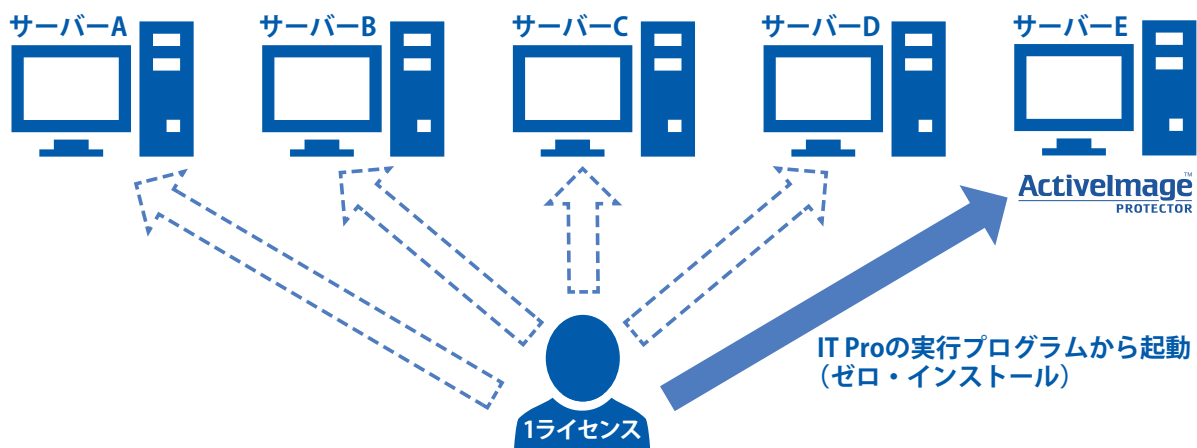
サーバーへのインストール不要 (ゼロ・インストール)

ActiveImage Protector™ IT Proは、プログラムをインストールすることなく、IT Proの実行プログラムを起動して、稼働中のサーバーのOS、アプリケーション、データを含めたシステム全体をバックアップすることができます。例えば、システムメンテナンスの現場に、ActiveImage Protector™ IT Proの起動メディアを携帯し、システムの更新作業前にバックアップを作成しておけば、不測の事態が発生した場合でも、バックアップから復元して迅速に元に戻すことが可能になります。また、ActiveImage Protector™ IT Proは、通常のActiveImage Protector™と同様の機能を利用できますので、仮想化機能を使用して仮想環境への移行作業などをおこなうこともできます。



ITプロフェッショナル毎のライセンス

ActiveImage Protector™ IT Proのライセンスは、マシン毎ではなく、1人のITプロフェッショナル毎にライセンスされます。ライセンスを受けたITプロフェッショナルがActiveImage Protector™ IT Proを使用する場合、年間契約で台数/回数無制限で使用することができます。ITプロフェッショナルは、1つのActiveImage Protector™ IT Proの実行プログラムを作成して、そこからバックアップや復元作業をおこなうことができます。

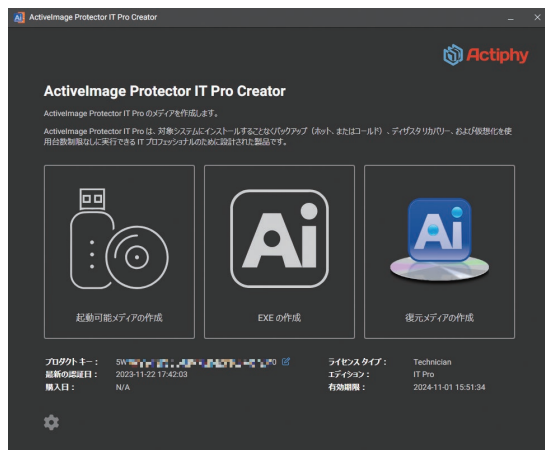


新機能

※2023年12月リリースでアップデートされた新機能です。

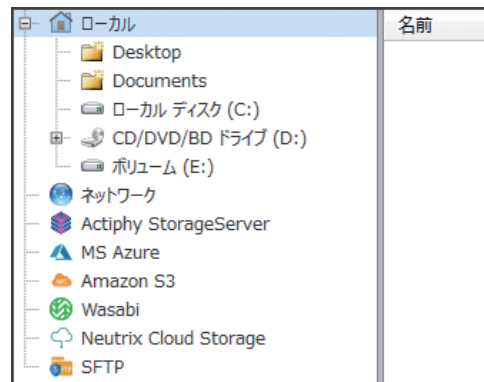
IT Pro Creatorコンソールデザインの一新

IT Pro Creatorコンソールのデザインが一新されました。IT Proの起動メディア / 実行ファイル / 復元用メディアの作成などの操作性が、さらに向上しました。



Actiphy StorageServer™への対応

バックアップ保存先として、ActiveImage Protector™専用のセキュアなバックアップストレージ、Actiphy StorageServer™に対応しました。また、クラウドストレージはAmazon S3、Azure Storageに加え、Wasabi、Neutrix Cloudが利用可能になりました。



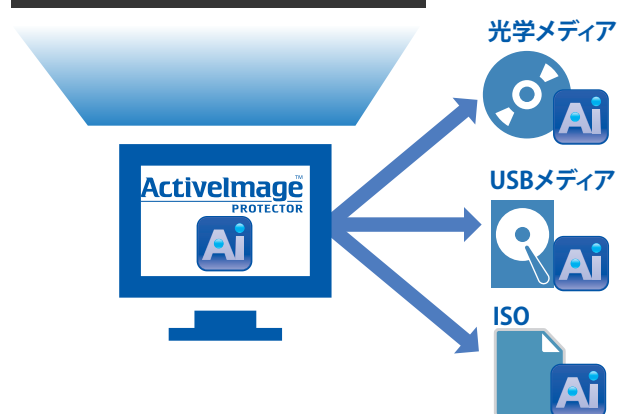
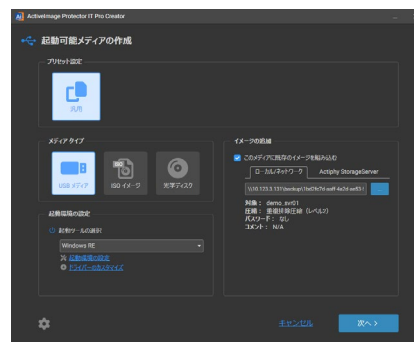
復元用メディアの作成

復元対象マシンのバックアップファイルを組み込んだ、復元専用のメディアを作成できます。復元用メディアから起動して、ワンクリックで簡単に復元ができます。復元用メディアは、USBメディア / ISO形式 / 光学メディアに作成可能です。



起動メディアへのバックアップファイルの組み込み

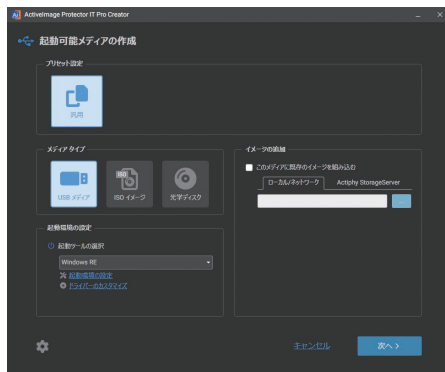
復元対象マシンのバックアップファイルを組み込んだ、起動メディアを作成できます。保存先のデバイスを必要とすることなく、起動メディア単体で、復元作業をおこなうことが可能です。



IT Pro起動環境

IT Pro起動環境の作成 (IT Pro Creator)

IT Pro Creatorから、IT Proの起動メディア / 実行ファイル (EXEファイル) / 復元用メディアの三種類の起動環境を簡単に作成できます。起動環境は、Windows OSに標準でインストールされているWindows REを使用して作成できます。また、必要なドライバーも簡単に組み込みます。起動メディアは、作業環境に合わせて、USBメモリ / HDD / SSD、ISO形式、光学メディアから選択して作成できます。



■ 起動メディア

起動メディアから起動して、システム復元やコールドバックアップなどがおこなえます。また、起動メディアには、IT Proの実行プログラムが組み込まれていますので、Windowsシステム上から実行プログラムを起動して、プログラムをインストールすることなく、バックアップなどをおこなうことができます。

■ 実行ファイル (EXEファイル)

実行ファイルは、IT Proの単体の実行プログラムです。Windowsシステム上から実行プログラムを起動して、プログラムをインストールすることなく、バックアップなどをおこなうことができます。

■ 復元用メディア

復元用メディアは、復元対象のバックアップファイルを組み込んだ、復元専用のメディアです。復元用メディアから起動して、ワンクリックで復元することができます。USBメディアが持ち込めない作業環境では、光学メディアに作成して使用できます。

バックアップ機能

高速にシステム全体をバックアップ

IT Proの実行プログラムから起動し、Windowsマシン (サーバー / PC) のOS、アプリケーション、データを含むコンピューターのディスク、またはボリュームをディスクイメージで、丸ごと高速にバックアップできます。緊急時には、バックアップから、複雑な操作を必要とすることなく、迅速かつ確実にシステム全体の復元が可能です。また、ファイルおよびフォルダー単位の復元にも対応しています。

静止中のWindowsマシン全体をバックアップ

IT Proの起動メディアから起動し、シャットダウンした状態のシステムボリュームのバックアップができます。出荷前のクリーンな状態 (Windowsのインストール直後など) のバックアップを作成できます。また、障害発生時に、後で調査するために状態を保存しておきたい場合などにも大変便利です。

効率的な増分バックアップ

増分バックアップは、前回のバックアップ以降の変更部分のみをバックアップしますので、バックアップに必要な時間と容量を大幅に削減できます。システムメンテナンス作業中の変更を、頻繁に効率的にバックアップすることが可能です。また、復元は特定時点のバックアップ (復元ポイント) を指定するだけで、ベース (フル) バックアップとそれに紐づく増分バックアップが復元されます。

ベースバックアップ			
	1回目増分ファイル		
		2回目増分ファイル	
			3回目増分ファイル

保存先の容量を大幅に縮小できる重複排除圧縮

重複排除圧縮は、バックアップ時にデータブロックの重複を排除し圧縮することで、保存先の消費容量を約半分ほどに節約できます。バックアップ速度は重複排除圧縮使用時でも従来と大きく変わることはありません。また、別途オプションを購入したり、重複排除機能を搭載した高価なストレージは不要で、特別な設定や操作もありません。

幅広い保存先を利用可能

バックアップ保存先として、ローカル接続のHDD、USBストレージ、NAS、SAN (ファイバーチャネル)、SFTPサーバー、LTOテープ、RDXに加え、クラウドストレージ (Wasabi、Amazon S3、Azure Storage、Neutrix Cloud、S3互換のオブジェクトストレージ) などを利用できます。作業環境やシステム構成に合わせて、柔軟に選択して利用することが可能です。

バックアップファイルの暗号化

パスワード保護と暗号化 (AES256ビット) したバックアップファイルを作成できます。バックアップファイルを暗号化することで、悪意のある第三者からの不正なアクセスからバックアップファイル内のデータを安全に保護することが可能です。

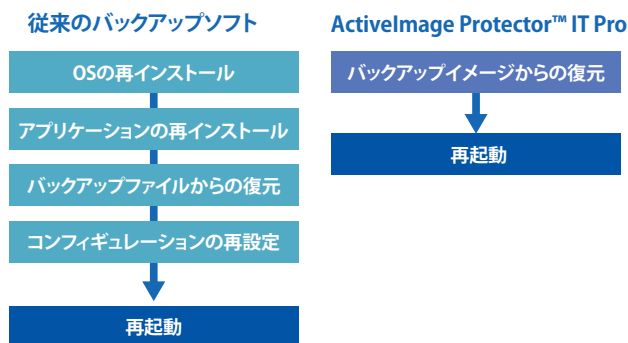
スクリプト機能

バックアップ時のそれぞれのタイミングでユーザーが個別の処理を挟みたい場合に、スクリプト機能が使用できます。例えば、スナップショットを実行する前にデータベースなどのキャッシュをクリアする、スナップショット実行後 (実際のバックアップ開始前) にデータベースを再開する、バックアップ作成後にバックアップファイルをコピーしたり加工する、などが可能です。

復元機能

高速で確実なシステムの復元

障害発生時には、バックアップからシステム全体を迅速に復旧することが可能です。OSのインストールや設定、ドライバーの適用、アプリケーションのインストール、バックアップからデータの復元など、多くの時間がかかる複雑な操作は不要です。また、復元操作は、ウィザード形式で簡単におこなうことができますので、管理者の負担を軽減できます。



ファイル復元

システムがクラッシュした場合、特定のファイルさえ復元できれば業務を再開できる場合もよくあります。ActiveImage Protector™ IT Proでは、システム全体のバックアップから、ファイル、フォルダー単位の復元ができます。アクセス権等のパーミッション情報やストリーム情報も復元できます。

別のハードウェア構成の物理マシンに復元

バックアップから、別のハードウェア構成の物理マシンへの復元にも対応しています。起動環境に搭載されている、A.I.R (Architecture Intelligent Restore) により、復元の際に、適合したストレージコントローラーのドライバーを組み込み、起動可能にします。

ボリュームサイズを指定して復元可能

ボリューム単位の復元において、ボリュームサイズを拡大または縮小して復元できます (NTFSのみ)。例えば、バックアップ元より小さいサイズのディスクへ復元する場合、ボリュームサイズの縮小やレイアウト変更などの柔軟な対応が可能です。

BMR (ベアメタルリカバリー) を短時間で実行

ハードディスクの障害時などで、新しいハードディスク (ベアメタルディスク) へ交換する場合、ディスクのフォーマットを必要とすることなく、バックアップから直接復元することが可能です。

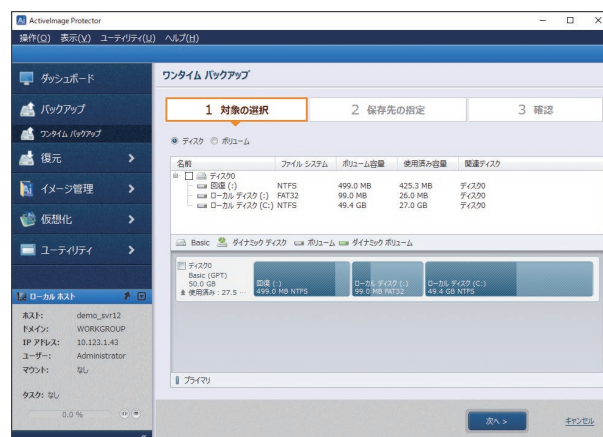
操作性

操作を効率的に処理できるGUIを搭載

タスク、ログ、スケジュールやディスク情報を管理できるダッシュボード画面が用意されています。また、バックアップ / 復元ウィザードを使えば、作業がより簡単かつ効率的におこなえます。

起動環境のリモート操作

起動環境へ VNC ビューワーで接続してリモート操作が可能です。これにより、復元対象のマシンの前にいなくても、起動環境から復元作業をおこなえます。



仮想環境への移行

仮想化機能

バックアップファイルや物理ディスクを、仮想環境に移行するユーティリティを用意しています。仮想ディスクフォーマットへの変換をおこない、その際、仮想マシンで起動するように処理します。VMware vSphereのVMDK形式、Microsoft Hyper-VのVHDとVHDX形式への変換ができます。

バックアップから仮想マシンに変換

Microsoft Hyper-V、VMware vSphere上に、バックアップから変換した仮想ディスクをアタッチした仮想マシンを同時に作成できます。これにより、変換後すぐに仮想マシンを起動できます。

ハードディスクから直接仮想マシンに変換

ハードディスクを直接Microsoft Hyper-V、VMware vSphereの仮想ディスクに変換できます。また、変換した仮想ディスクをアタッチした仮想マシンを同時に作成できます。バックアップファイルを介さないことで、P2Vの作業時間を短縮できます。

仮想化アダプター

既存のバックアップファイルに仮想マシンのドライバーを埋め込み、差分バックアップファイル(.aix)として作成します。この差分バックアップファイルは、そのまま仮想マシンに復元して起動できます。

バックアップファイルの管理

イメージマウント機能

バックアップファイルをドライブとしてマウントすることができ、バックアップファイル内のファイルやフォルダーを個別に復元可能です。また、書き込み可能としてマウントした場合は、変更部分を差分ファイルとして保存できます。

アーカイブ (統合) バックアップ

増分バックアップとフルバックアップ (ベースバックアップ) を合わせて、別の1つのバックアップファイルに統合して保存できます。



コンソリデーション (合成) バックアップ

増分バックアップを継続していくとファイル数が増え、管理が大変になります。コンソリデーション機能は、複数の増分バックアップを1つにまとめることで、増分ファイル数の増加を抑えることができます。

